

死亡率北海道は3番目

16年全国と比べ依然高く

がんを防ごう

国立がん研究センター(東京)は、2016年の1年間に人口10万人当たり何人が、がんで命を落としかたを示す「がん死亡率」のデータを公表した。都道府県別で北海道は85.6で、青森、秋田両県に次いで3番目に高かった。北海道は

2016年の
都道府県別がん死亡率

順位	都道府県名	死亡率
1	青森県	93.3
2	秋田県	87.4
3	北海道	85.6
4	鳥取県	84.1
5	高知県	81.8
	全国	76.1
43	岡山県	69.1
44	三重県	69.0
45	富山県	68.3
46	山梨県	67.6
47	長野県	62.3

(人口10万人当たりの死亡者の数、男女計。75歳未満、年齢調整済み)

12年から3年連続でがん死亡率が全国2位。15年は4位だった。(関連記事30面)

都道府県別のがん死亡率

は、厚生労働省の人口動態統計を基に、75歳未満を対象に各地域の年齢構成の違いを調整して算出。16年の全国のがん死亡率は76.1、最も低い長野県は62.3。16年の北海道のがん死亡率は85.6で、全国は同78.0から1

・9減少。北海道の死亡率は改善されたものの、全国との差は依然開いている。

北海道の男性のがん死亡率は108.5で高い方から4番目、女性は66.4で同2番目。全国は男性が95.8、女性が58.0だった。

北海道がんセンターの加藤秀則院長は「要因として、道民のがん罹患率の高さや検診受診率の低さなどがあると考えられる。検診ではコール・リコール(対象者への個別の受診勧奨など)をはじめ一段踏み込んだ対策が必要だ」と指摘する。